

プログラミング教育推進事業スタート!

2020年度より、小学校におけるプログラミング教育が始まります。それに先駆け、今年度よりプログラミング教育推進事業を開始しました。

本事業では、次の3つの柱をメインとしています。

① プログラミング教育研修会

常葉大学専任講師佐藤和紀先生を講師に、プログラミング教育の理論、実践について学ぶ。

② ICTアドバイザーによる出前講座

富山市小学校4年生全クラスへ、プログラミングの出前講座を行う。

③ プログラミング教育推進に関する調査研究事業

芝園小・堀川小・鶴坂小のモデル校3校で、プログラミング教育の研究を推進する。

8月に実施したプログラミング教育研修会では、佐藤先生より今後大きく変貌していく未来の社会と、それに伴うプログラミング教育の必要性について教えていただきました。そして、受講者は算数科のデジタル教科書、コンピュータソフトを使って具体的なプログラミングを体験しました。受講者からは「プログラミングに不安をもっていましたが、思った以上に簡単で楽しい。ぜひ学校で子どもたちに指導したい」という前向きな感想が多く聞かれました。

また、9月から始まったプログラミング出前講座では、子どもたちが自分でプログラミングをすることのおもしろさを味わう姿が見られました。赤、黄、緑のLEDを光らせるプログラムに成功すると、次に「信号のように光らせるには、どのようにプログラミングするといひかな?」と、自ら進んで課題を見つけ取り組み始めました。

プログラミング教育のねらいは、自分の意図する一連の活動の実現のために、組み合わせ方をどのようにしたらよいかなど、論理的に考えていく力をはぐくむことです。今後、指導方法や実践事例等をお伝えするよう努めていきます。



<アドバイザーから入力方法を学ぶ子どもたち>

『特別』が当たり前になることを目指して

～今年度の研究員研究から～

昨年度より、研究員研究では「授業における特別な教育的支援に関する研究」をテーマに掲げ、研究を行ってきました。今年度も、8名の研究員が授業を通して特別な教育的支援の手立てを試み、検証しました。以下実践の一例を紹介します。

実践事例	手立て	児童の様子と成果
小学5年理科 「魚のたんじょう」 水の中に小さな生き物を知り、積極的に観察しようとする。	微生物を十分に観察することをねらいとする。そのため、観察記録のワークシートは、微生物のイラスト一覧を用意し、観察した微生物のチェックをするものとする。	ワークシートへの記入は、観察した微生物のチェックだけであり、十分に観察の時間が確保され、児童は意欲的に微生物を見つけようとしていた。児童は「小さな生き物を見つけることが楽しかった」と振り返っていた。微生物をスケッチする技能の育成は、別の時間に設定している。

講師の和田充紀先生からは、「特別な教育的支援の手立ては、決して一部の子どものためではなく、どの子どもにとっても効果がある。特別な支援と考えるのではなく、それが当たり前になることを目指してほしい」など、研究員に助言をいただきました。

各研究員の実践につきましては、来年度当初に配付する研究集録で紹介いたします。



<それぞれの成果を発表する研究員>